

令和5年度 事業計画の実施状況

(1) 教育面

○ 教育目標

建学の精神「礼節を尊び、地域に貢献できる有為な人材の育成」に基づき、校訓「至誠・創造」の趣旨を体して、心身ともに健全で心豊かな人間を育成するとともに、使命感と正しい判断力を持つ意欲旺盛な人間の育成に努める。

1. 教育学習面改善のための取り組み

(1) 教育充実のための取り組み

特進コースは、他の進学校と比較すると実績はまだ乏しく、国公立大学への合格者の比率を増加させるとともに、難関私立大学への合格者の増加を目指す。総合（進学）コースではキャリア教育を進路指導の基点にして、どのように学び、どのような力を身に付けるのか、社会とのつながりを意識した学びを進める中で生徒の多種多様な進路希望の実現を目指す。

さらに、学年進行で iPad が生徒一人一台端末として導入されるにあたり、ICTを活用した指導方法についての助言や研修支援など通して、全教員が授業改善に取り組み、主体的で対話的な授業を実現する。

また、学校改革を推進していくために、学校評価をより丁寧に行う。授業評価・保護者アンケート、学力分析によるPDCAで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。昨年度に引き続き、分掌・学年ごとの自己評価を中間評価として夏季休業中に行うことによりより迅速な改革につなげていく。

加えて、年間計画を明確にすることによって、計画への取り組みを全体で共有できるようにする。総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、関係者評価や分掌総括を行い、次年度への取り組みの指針とする。

(2) 各コース等の特色化

① 特進コース

令和5年度からの3年計画で、以下の2点を重点的に進め、特進コースI類の国公立大学合格者が恒常的に50%以上実現できる体制を構築する。

ア) 進路決定までの本校での3年間の流れを明確化する。

イ) 先輩教員の指導の下、特進コースに携わる教員の「授業力」向上のための研修を強化する。

また、従来通り推進してきた、教科学習と並行して、外部との活動を中心に、探究的な活動を進め、社会との関わり方（将来や進路）を考えることに繋げる。

② 総合コース（進学コース）

生徒の能力、適性や興味・関心、進路希望の多様化など、様々な学びのニーズに対応するため、「探究的な学び」「地域等と連携した学び」「学校外の学修」などを推進する。

大学進学から就職など幅広い進路希望を有する生徒に応じた授業に加え、個別指導を強化し、基礎・基本の定着を図る。

③ 中 学 部

高校がある中学の良さを活かせるような教育活動を具体化し、特進コースに接続した内進生との縦割り交流の機会を設ける。

「英語多読」を軸に英語の教育活動を強め、ALTを活用し、外部への発信、コンクールへの参加、各種検定への挑戦などを旨とする。

(3) 研修体制の確立

① 教員研修の充実

初任者研修の継続（ベテラン教員と中堅教員、若手教員の情報交換の場に深化させる）とともに、ICT活用研修（ソフト面での活用の広がり）、「授業力」向上研修を充実させる。

② 学年会議やコース会議・教科会議等の充実

生徒の情報共有や指導法の検討を充実させる。

(4) 部活動の活性化

① 部活動入部率の向上

多くの生徒が部活動に所属し、有意義な放課後にするために、部活動加入 Week 等で部活動への加入を推奨し入部率の向上を図る。

② 学校全体で、部活動を応援できる体制づくりを推進する。

部活の結果や賞状等を昇降口に掲示するなど、学校全体で情報を共有し、生徒を称賛する雰囲気醸成を図る。

③ 外部発信

ホームページの随時更新、報道提供などを強化する。

④ 教育後援会組織の研究

特色ある教育活動、国際交流、運動部、文化部等の活動振興支援などで、多彩なサポートをしていただく組織の在り方について検討する。

(5) 保護者会との連携強化

学校・家庭・地域社会を結ぶ要として重要な役割を担う保護者会の重要性を再認識すると共に、コロナ禍により、制限されていた保護者会活動を活性化し、保護者会と学校の連携強化を図る。

→教育学習面改善のための取り組み（総括）

全体として

授業でのICT活用が本格化した。高校1年生から学年進行で生徒一人一台タブレットへ移行。教員のスキルアップ・意識改革の必要性。タブレットの正しい使い方をいかに生徒に浸透させるかなど、様々な課題が出てきた。

○特進コース

令和7年度からさらに魅力あるコースとして生まれ変わるための計画を策定。現在行われている教育活動を様々な面から検証（特進コース研修会の設置）

台湾の中山工商との交流・高大連携出前授業・大学見学・静岡魅力探究プログラム
アオハルし放題「あなたの住むまちの魅力を動画で発信せよ！」最優秀賞

○総合コース

探究学習を模索。生徒が主体となる主体的・対話的で深い学びを促す授業転換が進む。
大学や看護学校受験指導、就職指導などきめ細やかに対応できた。
高2で「進学出陣の会」総合コース版の実施

○中学部

Fキャンプを3年ぶりに実施、京都奈良研修、オーストラリア語学研修も再開
英語の多読、中学生委員会、NIE実践校

○教員研修

タブレットの授業活用研修、保護者対応研修、若手教員研修

○部活動

女子バレーボール部 春高バレー11年連続出場 全国ベスト8・高校総体出場全国
ベスト8、新人戦県大会優勝

女子ソフトテニス部 団体と個人で全国高校総体出場、全国選抜大会出場決定

男子バドミントン部 全国選抜大会出場決定

男子陸上競技部 全国高校総体出場

男子ソフトテニス部 東海大会出場

女子空手道部 東海大会出場

バトントワリング部 全国高文祭出場

女子将棋部 全国高文祭出場団体全国3位

コミュニティ研究会 学校新聞の発行、高文祭新聞部門 全国高文祭出場決定

学校HPやtwitter、Facebook、Instagram等への日常的な発信

○保護者会

富士見祭（文化の部・体育の部）、マラソン大会、全国大会応援などでの協力

2. 学習支援のための取り組み

生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを実践し、確かな学力を身につけさせるとともに、個性の伸長を図りながら、楽しく分かる授業、一人ひとりが活躍できる授業づくりに努め、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める中で、社会的資質や行動力を育成することを目指す。

HR担任を中心に生徒理解を一段と進め、生徒一人ひとりに寄り添う指導を強め、生徒が安心して学習できるサポート体制を構築する。

(1) 学習支援の充実

多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の修得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。

- ① 新教育課程の学年進行による円滑な実施

② 生徒表彰制度の拡充

生徒の意欲を高め、積極的に英語検定、漢字検定など各種検定試験に挑戦させることにより学習の補助となる基礎知識の充実を図るためのモチベーションアップにつなげる。

③ 教育相談の充実

HR担任、養護教諭、カウンセラーの情報共有を密にし、不登校又は教室へ入りにくい生徒への対応をきめ細かくできるように努める。（火曜日と水曜日にスクールカウンセラーを配置）

④ 生徒理解の充実

面接週間だけでなく、適宜個人面談を行い、生徒一人ひとりを把握し、個々の生徒に応じた指導を実施する。特に、いじめの重大案件については、全校的な取り組みができる体制をつくり、迅速に対応できるように図る。

(2) ICT環境の活用と整備計画

① 生徒用 iPad の利用推進（中学・高1年）

② 情報モラル教育の充実

情報機器や通信ネットワークを通じて社会や他者と情報をやり取りするにあたり、危険を回避し責任ある行動ができるようになるために身に付けるべき基本的な態度や考え方を養う。

(3) 教育のPDCAサイクルによる成果の可視化

① 保護者アンケート→教育活動の方針に沿ったアンケートに改善

② 外部模試後の学力分析会の実施

③ 授業公開・研究授業の実施

保護者への授業の公開 Week を年2回設定し、学校公開を積極的に行うと同時に、保護者の視点での授業評価を真摯に受けとめ改善に取り組む。

(4) 国際交流の充実

グローバル化が進む中での教育には欠かせない教育活動である交流事業を推進し、留学生の受け入れを行い、国際交流と共に異文化理解も深めていく。

中山工商（台湾の高校）との交流を深めると共に、時差のないオンライン交流ができるオーストラリア、ニュージーランド等の高校との交流を模索し、授業で学習している英語が使える場を提供する。

→学習支援のための取り組み（総括）

○ICT活用

課題・連絡等が当たり前になる。情報活用能力、モラルが課題。

電子黒板を活用した授業の広がり→一斉学習は順調だが個別学習・協同学習に課題

○生徒理解

HR担任、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーの情報共有が図れた。

不登校、人間関係の悩み等を抱える生徒の増加

○国際交流

1名の留学生（独）を受け入れ 中山工商との交流
中学 AUS 語学研修の再開

○学校評価と改革

授業公開・保護者参観等を通して、様々な意見を教育活動に生かした。
スタディサポートや模試の結果を元に、学力分析会を強化。いまの授業や補習体制の
効果的な改善に向けて活用。

3. 進路実現支援のための取り組み

(1) 進路指導の充実

確かな学力を定着させて進路選択を広げる。一人ひとりの進路希望を的確に把握して進路指導を推進する。

- ① 高大連携プログラム（神奈川大学・神奈川工科大学）の活用
連携校による説明会・講演会・出前授業・大学訪問等に加え、SDGs等の課題解決プログラムへの参加を促す。
- ② オープンキャンパスや大学訪問への生徒の積極的な参加促進
- ③ 大学の主催する教員用説明会への積極的な教員派遣及び生徒への情報提供の徹底
- ④ 就職希望者へのキャリア指導の充実（会社説明会や会社見学への参加促進等）
- ⑤ 進路学習（校内実施）に外部から講師を招き、進路選択の幅が広げられるよう努める。

(2) 進路実績の向上

教員の「授業力」の向上に加え、放課後の有効活用（探究活動・自主学習・補習）を効果的に実施し、更なる進路実績の向上を実現する。

- ① 国公立大学合格実績の向上
（Ⅰ類 21名・Ⅱ類 7名・Ⅲ類 4名・進学 3名の計 35名の合格を目指す）
- ② 私立大学合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す）
- ③ 看護学校・公務員等の合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す）
- ④ 就職内定率の継続（内定率 100パーセントの継続）
- ⑤ 本校中学生の 100%が富士見高校に入学するよう、高校進学への期待感を高めると共に、学校生活への満足度を向上させる。

→進路実現支援のための取り組み（総括）

高大連携（講師招聘 3 件）・大学訪問・オープンキャンパス参加を促す
進路学習の充実など

○進学実績

<国公立大学等> 45名合格

名古屋大学① 名古屋工業大学① 金沢大学① 静岡大学④ 静岡県立大学⑦
都留文科大学⑤ 茨城大学② 信州大学② 宇都宮大学① 上越教育大学②
山形大学① 北海道教育大学① 秋田大学① 周南公立大学① 前橋工科大学②

長野大学① 群馬県立女子大学① 釧路公立大学① 福知山公立大学①
富山県立大学① 愛知県立芸術大学① 公立諏訪東京理科大学②
防衛大学校① 防衛医科大学校① 職業能力開発総合大学校③

<私立大学>

東京理科大学① 中央大学① 学習院大学① 立命館大学① 日本大学②
東洋大学② 駒澤大学① 専修大学② 神奈川大学⑩ 神奈川工科大学①
順天堂大学⑦ 国際医療福祉大学⑤ 常葉大学 75 日本女子体育大学①
帝京大学① 東京国際大学① 城西国際大学① 人間環境大学① 岐阜協立大学①
洗足学園音楽大学① 和光大学① 桐蔭横浜大学① 金城学院大学①
湘南工科大学① 東海大学③ 星城大学① 静岡理工科大学① 帝京科学大学①
静岡英和学院大学① 江戸川大学① 松陰大学① 武蔵野大学① 横浜薬科大学①
静岡福祉大学④ 中部大学① 東京国際工科専門職大学①
藤田医科大学① 東京工科大学① 玉川大学①

<短期大学>

静岡県立工科短期大学校① 小田原短期大学① 常葉大学短期大学部④
山形県立米沢女子短期大学① 静岡英和学院大学短期大学部④

<専門学校>

静岡医療センター附属静岡看護学校① 静岡済生会看護専門学校⑤
静岡市立清水看護専門学校① 富士市立看護専門学校①
静岡市立静岡看護専門学校④ するが看護専門学校②
富士リハビリテーション大学校③ 太田医療技術専門学校①
中央医療健康大学校⑤ 東海医療学園専門学校⑤ 東海調理製菓専門学校②
ルネサンスペットアカデミー① 沼津情報ビジネス専門学校⑤
東海調理製菓専門学校② 東京ウェディング&ブライダル専門学校①
横浜ビューティー&ブライダル専門学校① フリーエース美容学校①
大原簿記情報医療専門学校⑤ 静岡県美容専門学校⑤ 静岡デザイン専門学校①
大原公務員医療観光専門学校② 早稲田美容専門学校① 静岡福祉医療専門学校①
中央調理製菓専門学校③ 中央動物総合専門学校④
中央歯科衛生士調理製菓専門学校① ノアデザインカレッジ①
日本工学院八王子専門学校① 東京観光専門学校①
国際ことば学院外国語専門学校① 東京俳優・映画&放送専門学校①
横浜リハビリテーション専門学校① 日本電子専門学校①
ESP エンターテイメント東京① 中央工学校①

○就職実績

<事務・営業等> (7名)

西尾産業① 山本ゲーゼル工業① 富士プラスチック① エコネコル①
日産レンタカー① 三協塗装① アイブロード①

<技能等> (50名)

日本フィルコン② 日本ストロー① ケンコーマヨネーズ① 日本食品化工①
ニッピ② 富士宮通運② 東洋カプセル① エリエールプロダクト① 日本製紙①
コーヨー化成① 日医工② ジヤトコ④ いなば食品③ ミヤマ工業①
アルムメディカルサポート① アリメント工業① テルモ② 日本プラスト①
興亜工業① 三協① 関東精工③ 旭化成① サンキョーメディック②
富士化工① ニチフリ① 富士カプセル③ ユニプレス精密①
富士プラスチック① 三生医薬④ ユニプレス① 不二テクノス① 清友工業①

<販売等> (2名)

ユナイテッドアローズ① サンエレクト①

<サービス等> (10名)

日本郵便①・まかいの牧場①・ソシエワールド①・ANA スカイビルサービス③
休暇村富士①・佐川急便①・秀生会①・富士厚生会①

<公務員> (1名)

法務局①

4. 地域連携・地域貢献のための取り組み

全人格的な生徒の育成を目指し、教科での指導を超えた地域に根ざしたボランティア活動や部活動等を活性化するための環境整備を行う。特にコミュニティ研究会を基軸に地域貢献などを通して、年間を通して地域との共生の広がりを目指す。また、生徒会や希望する一般の生徒など、参加者の輪が広がるよう促す。

- ① 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動
- ② 部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開
- ③ 施設訪問及やボランティア活動の活性化

→地域連携・地域貢献のための取り組み（総括）

地域活動等が定着した年度となった。ボランティア活動の広がり・日常化
富士一小音楽教室演奏活動 富士本町軽トラ市 各種イベント参加
障子張替隊 網戸張替隊 河川や海岸清掃 本の読み聞かせ FP 演劇祭 など

5. 生徒募集のための取り組み

在校生・卒業生が富士見で学んでよかったと思えるよう、全教職員が日々の教育活動を充実させるとともに、本校の魅力を改めて分かり易く整理し、富士見で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の定員確保（400名）を図る。

- ① 入学者確保のための分析・戦略
- ② 広報活動の活性化
- ③ 広報行事のアピール内容の強化（学校説明会・部活動見学会・体験入学等）
学校説明会や体験入学で在校生を使って、本校の良さをアピールする。
- ④ 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化）

各校訪問・各中学校が主催する進路説明会への参加等を積極的に働きかける
大手の塾だけでなく中小の塾への対応をきめ細かく行う

⑤ 地域への啓発活動

⑥ ホームページやSNSを利用した広報活動の拡充

訪問者の役に立つ情報、内容が面白いコンテンツの掲載、ページの整理と内部リンクの整備、コンテンツを頻繁に更新等、在校生の協力も得ながら、全教員が各部署で情報提供できるような仕組みを目指す。

→生徒募集のための取り組み（総括）

○全体として

日常的な SNS の発信

（フォロワーtwitter127→246 Facebook35→48 Instagram155→414）

来年度よりLINEのお友達機能を活用予定

広報活動のさらなる強化 部活動見学会等

R05 度入学者 433 名→R06 は単願 349 名、併願 652 名 （全体として受検者増加）

R06 度入学者 367 名

- ・総合コースの希望者が順調→大学進学から就職まで幅広いニーズに沿ったコース設計が受け入れられている。
- ・特進コースは苦戦→国公立大学や難関私立大学へ進学できる期待感が薄い。特進コースの改革を検討中。（令和7年度募集より大幅に改変）

(2) 財 務 面

「健全財政の堅持」の実現に努め、令和5年度決算では基本金組入前収支差額は251,150千円の黒字であった。基本金組入額を20,561千円計上したことにより、当年度収支差額は230,589千円となった。前年度繰越収支差額2,060,809千円と当年度収支差額230,589千円、第4号基本金取崩額18,000千円を足した結果、翌年度繰越収支差額は2,309,399千円となり、経常収入(1,108,361千円)に対し2.08倍(昨年1.99倍)の黒字となった。

- 令和5年度当初の学園規模は下表のとおりです。(令和5年4月1日現在)

	富士見中学校	富士見高等学校	合 計
生 徒 数	39名	1,049名	1,088名
専 任 教 員 数	4名	40名	44名
特 命 講 師 数	1名	7名	8名
常 勤 講 師 数	3名	18名	21名
特 別 講 師 数	—	1名	1名
非 常 勤 講 師 数	2名	14名	16名
英 語 指 導 講 師 数	1名	2名	3名
専 任 事 務 職 員 数	1名	5名	7名
事 務 嘱 託 員 数	—	4名	3名

- 人件費比率は、全国平均を下回っているのに対し、人件費依存率については学則定員充足率が78.8%(高校:定員1,200名に対し1,049名 87.4%、中学:定員180名に対し39名21.7%)と低い数値であるため全国平均をかなり上回っている比率になったと考えられる。

	令和5年度 富 士 学 園	令和4年度 全国高校法人平均
人 件 費 比 率 (対経常収入)	58.9%	63.0%
人 件 費 依 存 率 (対生徒納付金)	141.5%	119.9%
補正人件費依存率 (対生徒納付金+経常費補助金)	66.1%	71.5%

- 基本金の取崩について

第4号基本金として保持していた83,000,000円は令和4年度決算額から算出した本学園の第4号基本金の基準額65,273,301円に対し限度額120%以内(下限80%)を超える127%であったことから、基準額(65,000,000円)に合わせる会計処理を行ったため18,000,000円の取崩を行った。